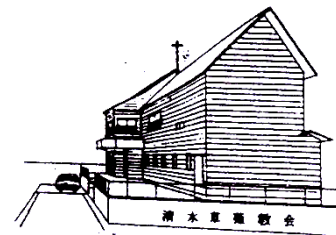


《今朝の聖書から》先週は、多くの人々が、パリサイ派の人々にもどう仕様もないほどのうねりとなって、イエス様のエルサレム入城を迎えた記録を読みました（ヨハネ12：19）。“ホサナ”の声も、ここでは描き出されていません。かなりの程度、イエス様に期待していた人々も姿を消しています。二つの理由があったようです。ひとつは、いざどちらかを選択しなければならない時になると、人々は、私たちもそうですが、自分の立場をはっきりさせなければならないこととなります。かなりの程度と書いたのは、このことです。人というものは、矛盾するような別々のことに、かなりの程度、期待してみることができるようです。もう一つの理由は、イエス様の“あがない”による救いを、すなわちイザヤの予言の成就を明確には理解していなかったことでしょうか。今朝の個所でイエス様は、ただ独りになられます。ただ一人で世界のすべての罪と、相對されることとなります。ヨハネ13：36で“私の行くところにあなたがたは来ることができない”と言われたことが成就するためです。“これらのこと”と18章が始まっていますが、このことにまず注意しましょう。ここで主は、救いのエッセンスを語られます。“私が彼らのうちにいるためです（17：26）”がそれです。今もそのことは変わりません。聖餐の度に私たちは“キリストが常に私たちとともにあり”と祈る意味は、実にこのことではないでしょうか。そして“ケデロンに向こうに行かれた（18：1）”に続くのです。ユダにとっても、自分の態度をはっきりさせなければならない時になあるわけです。イエス様も、いよいよはっきりと立場を示されます。“私がそれである”という言葉です。二回も繰り返されます。ここで“園”とあるのは、マタイ、マルコの記録したゲセマネの園のことです。十字架の物語は、歴史的出来事としては実に、受動的な出来事ですが、私たちの聖書は、神様にあって全く能動的な、救いの出来事として描いていることに気付くでしょう。14節に“一人の死”というのは明らかにイエス様のことですが、これについては、11：50～52にその内容が記録されています。これらの出来事と並行して、シモン・ペテロの有名な出来事、三度に及ぶ否認の出来事があったこととなります。ペテロの手になる手紙がはっきりと収められ、定められている新約聖書に、ペテロの“失態”が書かれていることに心を留めましょう。ペテロは決して主を裏切ることを目的とせず、主に頼ることと悔い改めから離れない教会生活を送ったのです。

週報

2008年 3月 16日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝16：31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7：00
エステル一会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7：00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸